

## 高能力肉用熊本コーチンの特性

農業研究センター 畜産研究所 中小家畜部  
担当者:松崎 正治

### 研究のねらい

安価なブロイラー肉の輸入が増加し、鶏肉の国内自給率は7割を切った。

これに対応し各地の地鶏を利用した高品質鶏肉の生産が盛んになったが、景気が低迷していることもあり、価格の高い地鶏肉は伸び悩み、価格の比較的安い地鶏とブロイラーの交配鶏、または外国産のレッドブロイラーを使った銘柄鶏の需要が増大している。

このため肉用熊本コーチンの生産用母鶏の熊本ロードを大型のものに替えることによって特定 JAS 規格で定められた条件の範囲内で、熊本コーチンの生産性を向上させるとともに販売価格を下げることによって需要拡大を図る。

### 研究の成果

肉用熊本コーチンの交配を交配1(熊本コーチン × 熊本ロード)から交配2(熊本コーチン × 有色大型雌系統)に代えることによって次のとおり生産性が向上する。

- 1 出荷日齢は交配1の15週齢から、交配2の12週齢へと3週間短縮される。
- 2 交配2の12週齢時の雌雄平均体重は2,957gであり、特定JAS規格で定められている飼育の最短期間である80日齢での出荷が可能になる。
- 3 出荷時の雌雄体重差は、交配1の1,038gから交配2の882gと少なくなる。
- 4 飼料摂取量は、交配1の9,877gから交配2の7,941gへと1,847g少なくなる。
- 5 飼料要求率は、交配1の3.59から交配2の2.71へと大幅に改善される。
- 6 種鶏の産卵率は70.9%と熊本ロードに比べるとやや劣るが、大型鶏としては高い産卵率を維持している。
- 7 肉用鶏1羽当たりの生産費は、交配1の943.6円から交配2の796.1円へと15.6%安くなる。

### 普及上の留意点

- 1 種鶏は、表2の量により毎日定量給餌を行う。
- 2 肉用鶏の飼料は、0～4週齢：ブロイラー前期飼料、4～8週：ブロイラー後期飼料、8～12週齢：ブロイラー仕上げ飼料を使用する。



写真1 有色大型雌系統

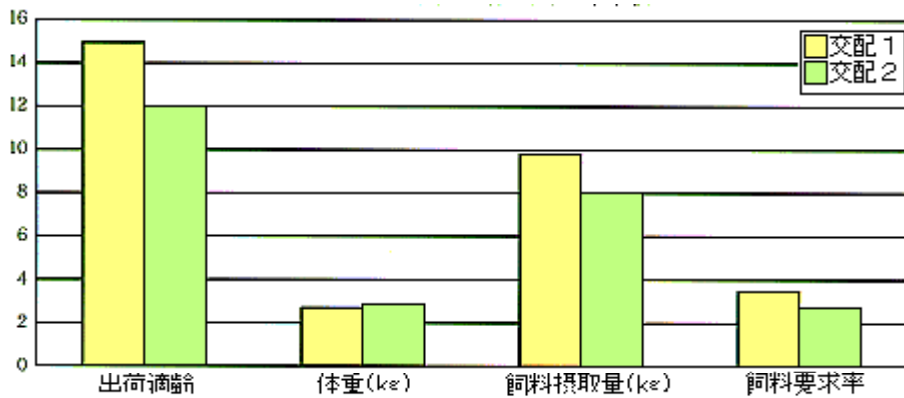


図1 肉用鶏の成績

注) 交配1 : 熊本コーチン × 熊本ロード  
 交配2 : 熊本コーチン × 有色大型雌系統( )

表1 有色大型雌系統の成績

育成率	生存率	50%産卵 到達日齢	卵重53g 到達日齢	産卵率	平均卵重	種卵取得率	飼料摂取量	
							育成期	成鶏期
94.3%	90.8%	173日	175日	70.9%	64.9%	88.9%	12,835g	38,739g

表2 種鶏の飼料給与量 (g / 雌1羽当たり)

日齢	49~56	56~63	63-70	70-77	77-84	84-91	91-98	98-105	105-112	112-119	119-126
量	58	58	60	60	65	65	70	70	75	75	80
日齢	126-133	133-140	140-147	147-154	154-161	161-168	168-175	175-182	182-189	189-196	196-245
量	80	85	85	90	100	105	120	130	140	150	155
日齢	245-280	280-315	315-350	350-385	385-420	420-448					
量	145	140	135	130	125						